

「豪雨の果てに」

灯明寺中学校三年

屋敷勇作やしきゆうさく

先日、西日本豪雨が西日本の広範囲にわたって起きた。その中で最も被害が大きかったのは土砂災害だ。死者がなんと約200人にまで上り、2014年夏の広島土砂災害を上回り、平成で最悪の土砂災害となった。ちなみに土砂災害の種類は、(1)崖崩れ、雨や地震等の影響によって、急に斜面が崩れる現象。

(2)地すべり、山地の斜面による岩石や土壌が、ゆるりと斜面下方に移動する現象。(3)土石流、長雨や豪雨等によって、土砂や川底の石が一気に下方へ流れ下る現象。

今回の西日本豪雨では、7月26日の新聞によると土砂災害は引道府県計1350件である。亡くなったり、た方の内訳を見ると、窒息や溺死が多い。窒息は土砂災害により、生き埋めになったと見られる。溺死は浸水した家の中で逃げ遅れたことが原因のようである。なぜこんなに犠牲者が出てしまったか、かを考

えるにあたって、土砂災害が起きてしまった
大雨以外を原因を検証しなくてはいけない。
まず住んでいる場所が原因で被害に合った
ことが挙げられる。山や川の近くに住んでい
た人が多く亡くなっていたように思う。特に犠牲
者が多い広島県は花こう岩が風化して崩れや
すい、まさ土などでできた斜面が多く山の斜面
崩壊が多かった。広島県では斜面を宅地増成
して家を多く建てており、斜面崩壊による土
石流に家が巻き込まれてしまった。広島市安

芸区では裏山が崩れ、2月にできたばかりの
治山ダムを乗り越えた土砂が住宅地に流れ込
んだ。岡山県倉敷市真備町では、小田川の提
防が合流部近くで決壊し、川から水が一気に
住宅地に広がった。

次に避難をしなかった人が多いことである。
気象庁が避難指示・勧告を出したにもかかわ
らず、避難した人は、わずか0.5%だった。
危険性が分からなかったり、いつ逃げたらいい
か分からなかったようである。

土砂災害が発生した時間帯も原因の一つのようだ。岡山・広島・愛媛の3県では、発生したのが7月6日夕から翌7日朝までの14時間半に集中していたそうだ。そのため自宅や敷地内、近接地で被災した人が多い。この時間に災害が起きたら、特に高齢者の場合、避難することは難しいであろう。

では被害に合わないために今後どうしたらいいのだろうか。理想としては、ハザードマップをもとに安全な場所に鉄筋コンクリート

で3階建て以上の建物を建てて、そこに住むのがよいだろう。しかしそれは現実的に難しい。これから土地を探してそこに家を建てる人は、ぜひハザードマップや過去にその場所で土砂災害や浸水被害があったかを調べてから建ててもらいたい。

また基本的に自分が住んでいる家・地域について、把握しておくことも大切だ。山や川の近くか、土砂災害警戒区域であるか、避難場所はどこか等。地区の避難訓練には必ず参

加して、家族とも避難方法、避難場所、避難する時の持ち物等について話し合っておくことや一人暮らしのお年寄りの情報の共有等自治会レベルの備えが大切だと思う。愛媛県大州市三善地区は住民約900人だが、ほぼ全ての世帯が水没しながら一人のケガもなかったことから、三善地区がやっている避難マップや一人一人の避難カードの作成を参考にしたい。

雨が降りだして、大雨特別警報や土砂災害警戒情報が発表されたら、必ず避難すること
も大事である。早め早めの避難が身を守るのだとつくづく思った。

さらに西日本豪雨関係で、各地域の避難所に避難した人は死者・行方不明者がいる都道府県で合計でなんと3640人。当時、大雨特別警報まで出た県が複数あるが異常に少ない。自分の身に危険があることを分かっているなか、たのだからか。避難をしない理由があったとしても、避難勧告が出たら瞬時に避難

を開始するべきである。また、周囲の状況が悪かったら自主的に避難をするのもよい。

そして、今回の西日本豪雨で特に被害が大きかったのは広島県である。もちろん、まさか土壌も原因の一つとして考えられる。他の原因として考えられるのは、高度経済成長期に人口が増えた影響で都市部の近郊の山を切り開いて、そこに住宅地を造ったことだ。もしそうしなかったから、このような被害をまぬがれることができたかもしれない。

最近、日本列島付近の海水温が上昇し続けているので、西日本豪雨のような災害級の豪雨をこれから何度も経験することになるだろうと予測される。政府の豪雨の対策と国民が「自分だけは絶対に大丈夫」と思わないこと、でこのような被害を繰り返すことにならないだろう。